

第44回創出研究会議事録

05、1、14

事務局

日時 05、1、11(火) 11:30~14:15
場所 清水商工会議所5階会議室
出席 30人〔企業19社23人(会員22)、adv0、coordi 2、事務局3、その他2:発明協会、静岡工技セ〕

内容

2、中西会長の話

- 1) 今年は何かをやらねばならない。目に見えないと長続きしない。地域活性化というと地域の経営資源に目が向き、その枠から出ない発想が多い。地場だけの資源活用だけでは産業起こしは無理だ、地場の経営資源はせいぜい30%程度だ。足りない部分をどうするか、それは何処にあるか、それを活用出来ないかと考えてゆかなくてはならない。
皆さんの配布資料にある特許ニュースにあるキャノン社長や特許庁長官などの新春懇談会で、中小企業は知財が不足している、地方に特許情報などの知的財産を早く、判りやすく、やすく供与できるような体制を作って欲しいと言ってきた。
特許庁長官は地域開発を進めるため全国行脚するといったので、しみず新産業の研究会を紹介した。長官は全国の講演で使わせてもらうと言った、我々の活動が顕在化に踏み出したということ。私の情報や皆さん相互の情報を活用し地場で新しい仕事を作るといふ情熱を持ってがんばって欲しい。
- 2) 「駿河湾地域の循環型社会の推進と新事業の創出」というテーマで新プロジェクトを検討している。未だ発表の段階でないが近いうちに皆さんに話をして、協力をお願いしたい。
会議所が1000万円、静大も300万円、出しF Sとそれに関連する研究をスタートさせる事になった。市も応援すると言っている。
個々のテーマはあらためて話をするが、2つのコア技術がある。
1つは、高輝度LED・・・R1w×3ヶ、B3w×3ヶ、G3w×3ヶ
これに、以前から話をしているスパイラルヒートシンクを組み合わせたもの、
放熱問題はこれで解決。(サンプル提示)
これを使って、植物工場、陸上養殖を研究をしていく。
2つは、垂臨界水抽出技術の応用、いろいろなものの抽出など多方面に応用が期待できる。
大阪府立大学とコンタクトしてゆく。
これに付いてはいずれ皆さんに情報開示する。
- 3) ・4月から日本工業大学の講師をする(同大学は仕事に直結した大学で、加工技術にはすばらしいものがいくつかある)・・・此処に眠っているテクノロジーを清水にもってきたい。
・経産省の構造特区評価委員も1年継続。
・静大客員教授も引き続いてやる
忙しい1年になるけれどがんばってやるので、皆さんも是非新年に向かって挑戦してほしい。
- 4) 新技術紹介：
・昨年話をしたが、間伐材の不燃材への利用(難燃ではない)不燃剤をコーティング、実験

では、プリンスの火炎トーチで着火しない。この技術は何も間伐材だけではない、紙、布、その他への応用が考えられる。

- ・ 塗るだけで木でも何でも超撥水になる。・・・昨年紹介した北見工大の各種材料の溶射技術とフッ化ピッチの複合技術から発生した新技術・・・表面の改質に
- ・ A L ヒートシンクの利用、L E D を組み込んだA L 基盤とヒートシンクの接合部分をどうするか、そのままでは間に空気が入って熱伝導が落ちる。一ひねり要。
- ・ ハイブリッド車のモーターの発熱をどう放熱するか、又モーターの電磁波をどうシールドするか等、テーマは沢山ある。
- ・ 閉鎖系の放熱処理、これもこのヒートシンクを利用して出来る、ヒートパイプ、S C C がある。又イカ船集魚灯にR B G 制御を持った水中L E D ランプが開発されている、電球ではないので水は心配ない。2 0 0 m ~ 5 0 0 m 位までO K。

3、会員の情報意見交換

1) 望月鉄工所にスパイラル混合練り機の応用と新テーマの宿題を出した。

2) 大日工業、川瀬氏

発泡ウレタンのリサイクルが出来ないか、金属にくっついているウレタンをはがすところまでは出来た。

中西：似たようなことで、廃タイヤを電磁波シールドにリサイクルというのがある。

3) 駿河精機、小田氏

環境調査をやっている中で、干潟とか河川の浄化能力を、プランクトンや藻類を使って測定しようという技術がある。日本では未だ関心がないが、ヨーロッパではかなり注目されている。

河川や干潟の浄化能力は、水中のプランクトンや藻を顕微鏡で数を測定するというやり方、またクロロフィルを定量すると云う方法、があるが金と時間がかかるため測定数は少なくなってしまう。これを簡易迅速測定器にしようというもので、L E D 照射をして反射光を測定する機器である。ドイツでは既に開発されている。(内部の半導体等は日本製)

此処で駿河精機のシステムを紹介

- ・ 多摩川の付着藻類の測定 (鮎の育成に関連)
- ・ 干潟の餌測定 (養殖餌料の培養のモニタリングに)
- ・ 藻類以外の微生物測定
- ・ 有用藻類の培養モニタリング、折戸湾と外海の状況調査などに使えそう。

干潟などのセンサー部を置き、計器に数値表示する方式、測定藻類数と計器表示との相関線 (検量線) は此処に作る必要はある。

4) ヒラテ技研杉山氏

オガライトを豆炭状にしたオガ炭をS L の燃料に使いたいというテーマがある (杉間伐材利用) 間伐材の直接燃焼は熱量が足りない。豆炭状にすれば熱量もU P し実用化が考えられる。

問題：オガ炭は燃えてきて赤くなってくると石炭のように機関車の火格子に留まらずに、格子の隙間から下に落ちてしまう。良い方法がないか。

中西；北海道は間伐材をストーブ燃料にしているが、ストーブ中で振動を与えると火種が移動するという。炎に何千Vをかけると泥炭でも良く燃えるという。

高田:(静工技セ)昔、燃焼研究で豆炭造りをやった。この研究でみかんの皮を入れると豆炭の熱間強度が高くなったということを経験している。文献を調査します。

5) 日立SE南條氏

温室で蜂による花の交配を行なうが、室温が高くなって蜂が死んでしまう。エアコンは経済的でない。ほかに方法はないか。

中西:今の問題のような部屋の内外、或いは壁を通して放熱させるという事には、先のALヒートシンクで行ける。

1パネル 最大250mm×1000mm

6) ヒラテ技研杉山氏

ある人から云われた、物づくりのハイブリッドだけでなく、文化のハイブリッドは出来ないかと。考えたい。

Ex 由比:桜海老、広重美術館、灯り館とウォーキング・・・人が来ている

4、その他

1) 事務局から

- ・ 1/27 産学官交流講演会の案内 東海大海洋学部
- ・ 1/27・28 インターネットを使った特許情報検索講習会案内
- ・ 1/28 サプリ&機能性食品2005の見学会、東京ビッグサイト案内
- ・ 次回 「テーマ探索研究会」

3月4日(金) 15:00～ マナーハウスエリザベート

「駿河湾地域循環型社会の推進と新事業の創出」・・・中西会長
交流懇親会

以上